

G SSH普及事業

1 課題研究教員研修会

(1) 研究開発の課題（研究概要）

課題研究の指導法を公開することで、課題研究を地域に普及させる。また、教員間で課題研究の効果的な指導法について考え議論することで、指導の改善を目指す。

(2) 研究開発の経緯

平成25年度に重点枠事業「理科課題研究を推進する教育ネットワークの構築」が採択されてから、毎年教員研修会を行ってきた。県内で課題研究を実施している学校は十分に多くはない。その理由はいくつか考えられるが、昨年度の教員研修会の参加者アンケートでは、課題研究や探究活動において教員の効果的な声掛けの仕方がわからないとの意見が多くあげられたことから、それら課題研究の指導のノウハウを普及することが効果的だと考え、今年度はファシリテーションをテーマに実施することにした。

(3) 研究開発の内容

ア 研究の内容・方法

研修会では本校の3年課題研究の全体発表（本校体育館でのポスター発表）の見学及び、京都教育大学の村上先生からは、生徒の思考を引き出す声かけの仕方をはじめとした、コーチングのノウハウを実習を交えて指導いただいた。さらに、A-sessions代表の上井先生からはファシリテーションの指導をいただき、参加した先生方が実際にグループワークに参加し、ファシリテーションに必要な場の作り方や指導のノウハウを体験を通して学ぶことができた。

○ 課題研究教員研修会の当日プログラム

9:30～ 10:00 受付

10:00～ 10:30 概要説明

10:30～ 11:30 ファシリテーション 理論
昼食

12:30～ 14:00 ファシリテーション 実習

14:10～ 15:15 3年課題研究発表会 見学

15:25～ 16:25 振り返り、今後の授業への活用について

16:25～ 16:30 閉会、アンケート記入

イ 連携先

京都教育大学教教育学部 教授 村上 忠幸 先生

A-sessions 代表 上井 靖 先生

愛知総合教育センター 指導主事 磯貝 大輔 先生

ウ 参加者 25名

エ 実施日 令和2年9月30日（水）

オ 検証（成果と反省）

アンケートからは参加者の半数が自校で課題研究や探究実験を取り入れていない状況であった。自由記述のアンケートからは生徒が意欲的に取り組む様子を挙げられる方が多く、主体性を引き出すうえで課題研究や探究実験の有効性を感じてもらえたと言える。またファシリテーションやコーチングも体験を通して学んでもらうことができ、今後活用したいとの感想が多く挙がっていた。



講演会の様子

感想

課題研究発表会の参観について

- ・生徒達がいきいきと活動している様子が非常に良かった。
- ・興味を持った身近なところを研究テーマに設定して、テーマ設定の段階で見通しをもって研究をしているところが素晴らしいと思った。

ファシリテーション・コーチングの実習について

- ・実際に体験することができてよかった。どうしてもティーチングが染みついているので、日頃の意識が大切だと感じた。